

新しい水稻奨励品種「愛知 135 号」の特性について

～夏の暑さにも負けない新品種！2025 年度から一般栽培を開始～

杉浦 和彦（愛知県農業総合試験場作物研究部）

【2024 年 7 月掲載】

【要約】

水稻の生産現場では、地球温暖化の進行に伴う高温の影響により米粒が白く濁る白未熟米が増加し、玄米品質の低下が大きな問題となっている。新しく奨励品種に採用された水稻「愛知 135 号」は、高温登熟耐性を有し、品質が低下しにくいいため、安定して高品質な米を生産できる。また、大粒で食味がよく精米時の歩留まりが優れるため、業務用米としての利用にも適する。「愛知 135 号」の一般栽培は 2025 年度から開始される。

1 はじめに

本県平坦部の水稻は、極早生（あきたこまち、コシヒカリ）、早生（ゆめまつり、あさひの夢）、中生（あいちのかおり SBL、大地の風）の 3 つ熟期がある。しかし、近年は「極早生」、「中生」品種に作付けが集中する傾向にあり、高温による品質低下などで早生種の作付は 2023 年度でわずか 4 % となっており、中生の成熟期頃に農作業が集中し経営規模拡大のうえで課題となっている。

このため、市場評価が高く、本県での作付面積が最も大きい「あいちのかおり SBL」を早生化し、高温登熟耐性、病虫害複合抵抗性を付与した品種の開発を目的に、愛知県経済農業協同組合連合会と共同で育成を行った。2023 年 8 月に「愛知 135 号」の奨励品種採用が決定された。本稿ではこの特性について述べる。

2 「愛知 135 号」の特性

(1) 生育特性

「愛知 135 号」は、「あさひの夢」、「ゆめまつり」とほぼ同じ成熟期である。稈長は、「あさひの夢」、「ゆめまつり」よりも約 10cm 長い。収量性は同等で、千粒重は「あさひの夢」、「ゆめまつり」より 1g 以上重く、粒が大きい。

表 1 「愛知 135 号」の生育特性

品種・系統名	成熟期	稈長	倒伏程度	精玄米重	千粒重	外観品質	整粒粒比	白未熟粒粒比
	月.日	cm		kg/a	g		%	%
愛知135号	9.15	80	0.9	58.8	23.7	4.4	73	11
あさひの夢	9.13	70	0.1	58.2	22.0	5.7	45	33
ゆめまつり	9.16	71	0.0	53.1	22.1	5.8	50	34

・ 2017～2022年の農業総合試験場 場内ほ場の平均値

・ 倒伏：0（無）～5（甚）の6段階評価

・ 外観品質：1(上の上)～9(下の下)の9段階評価、5.0が1等下限、6.0が2等下限、7.0が3等下限相当

(2) 高温登熟耐性

「愛知 135 号」は、白未熟粒の発生が少なく、外観品質が優れる（写真 1、表 2）。高温登熟耐性は、「あさひの夢」は「やや弱」であるが、「愛知 135 号」は、「強」である。



写真 1 玄米の比較
左：愛知 135 号、右：あさひの夢

表 2 高温登熟耐性

品種・系統名	出穂期	登熟温度	整粒	白未熟粒	判定
	月.日	℃	%	%	
愛知135号	8.20	28.6	71	7	○
あさひの夢	8.21	28.6	51	25	△×

・○：強、○△：やや強、△：中、△×：やや弱、×：弱

(3) 病虫害抵抗性

「愛知 135 号」は、イネ縞葉枯病、ツマグロヨコバイ抵抗性を有する。葉いもち、穂いもち病抵抗性は「中」なので、いもち病の常発地では注意を要する。

表 3 病虫害抵抗性

病虫害抵抗性	愛知135号	あさひの夢	ゆめまつり
葉いもち	△	△	△
穂いもち	△	○△	○
イネ縞葉枯病	○	○	○
ツマグロヨコバイ	○	×	○
セジロウンカ	×	×	○

・○：強、○△：やや強、△：中、△×：やや弱、×：弱

ただしイネ縞葉枯病、セジロウンカは ○：抵抗性有、×：抵抗性無

(4) 食味評価

愛知県経済農業協同組合連合会が行った大型搗精試験では、「愛知 135 号」は、粉状質粒・砕粒が少なく、完全粒割合が高かった。食味の総合評価は、「あさひの夢」と比べ同等以上の評価であった。

表 4 食味評価

品種・系統名	大型搗精試験			食味
	完全粒	粉状質粒	砕粒	総合
	%	%	%	
愛知135号 (弥富市)	97.6	1.3	1.0	3.22
愛知135号 (刈谷市)	96.2	1.0	2.8	3.10
あさひの夢 (刈谷市)	91.6	3.4	4.9	3.00

・大地の風を基準、総合：5（優れる）～1（劣る）

(5) 特性のまとめ

「愛知 135 号」は、既存品種である「あさひの夢」と比較し、大粒であり高温登熟耐性を有しているため、玄米外観品質が良好である。

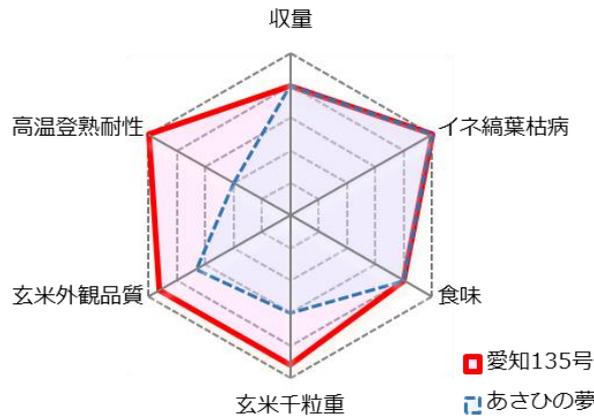


図 1 特性のまとめ

3 栽培マニュアル

農業総合試験場では、品種特性と栽培暦を掲載した『水稻品種「愛知 135 号」安定栽培マニュアル』を 2024 年 1 月に作成した。マニュアルには、移植栽培、V溝直播栽培の施肥量の目安などの栽培暦を掲載している。「愛知 135 号」の栽培については、必要に応じて最寄りの農業改良普及課に相談してほしい。

表 5 「愛知 135 号」栽培暦（移植栽培）

時期	作業	資材/農薬	使用量 10a当り	備考
冬期	土改材散布 種子消毒 育苗 代かき	地域慣行剤		必要に応じて土壌改良を行う
5月中旬	施肥 田植え	側条エース 標準用 (26-11-9)	27~ 31kg	窒素成分で 7~8kg/10a ※窒素吸収量11kg/10aを目標とし、地 力に応じて加減する 栽植密度 50~60株/坪 (15.2~18.2株/m ²)
6月下旬~ 7月上旬	除草剤散布 中干し	地域慣行剤		倒伏防止のため肥沃なほ場では強めに行う
8月上旬	出穂 カメムシ類防除			地域慣行剤による防除を必ず実施
9月中旬	収穫 耕起			黄化率85~90%を目安に収穫(出穂後40日頃) 成熟後速やかに行う 落水は収穫7日前まで行わない 収穫後は速やかに耕起しましょう

※病害虫防除
○ 種子消毒・箱施薬
慣行の防除方法に準じて行う。
○ 本田防除
カメムシ類による吸汁害を防ぐため、防除を行う。
周辺ほ場と出穂期が異なる場合は、出穂期にカメムシ類が集まりやすいため、特に注意する。
いもち病の常発地や葉いもちが多発するほ場では防除を行う。
前年、紋枯病が発生したほ場では発生が予想されるため、防除を行う。
その他、必要に応じて防除を行う。